

私の組合人生を振り返って

石川県・元石川県支部 次長
林 優 子

私が組合活動に参加したのは、倉庫精練に入社して二年目の 1971（昭和 46）年、西金沢支部婦人部染色課代表の幹事として参加してからです。

忘れもしないのは、賃上げ闘争でストライキが決行され、支部の食堂に全員が待機して、委員長が再度の交渉の経過説明に、この場に帰ってくるのを待っている間、青年・婦人委員会の仲間と労働歌の歌唱指導を行いました。

交渉がうまくいかずストは続行、ピケやジグザグ行進を体験し、内心、「なぜ、このようなことをしなければならないのか？」と疑問に思ったものでした。

最初は「青・婦」の行事などを重点に活動する中で、ストを経験したことで、組合の活動は組合員の職場環境や生活を守るためにあることを理解しました。

その二年後、1973（昭和 48）年 7 月に私は、ゼンセン同盟石川県支部に入局することになりました。そのきっかけは、当時、県支部の書記さんが退職することになり、倉庫精練の委員長に「誰かいないか」と相談があり、私の方へ話が回ってきました。

入局する前に、県支部からの要請で「文化リーダー養成講座」を受け、これが私の研修会デビューでした。参加者は同年齢の人たちもいて、レクリエーションや説得方法など多くのカリキュラムを楽しく学習することが出来ました。

県支部に入ってから、石川県内の加盟組合の歴史と伝統を背負いながら、新しい組織を開拓するために、県支部長をはじめスタッフの方々が日夜ご苦労をしていることが、だんだんと分ってきました。私は、仕事に集中することができ、認めてもらえてやりがいがありました。私の役割は、繊維産業には女性組合員が多いので、女性組合員の方々の悩みを聴き、問題の解決策を話し合い、婦人委員会で取り上げ、まとめることでした。

オイルショックがあった年に「第 1 期婦人リーダー研修会」が開催され、支部長から「先ず、勉強してこい！」と言われ参加しました。当時は“友愛の丘”はまだなく、静岡県御殿場の富士政治大学の施設で、夜遅くまでグループワークに取り組み、必死に学習をしたことが思い出されます。当時の研修生とは、ゼンセン同盟本部主催の行事で会う機会が増え、ゼンセンの仲間がいるすばらしさを実感しました。

女性の活動が活発化し、「男女雇用機会均等法」の施行に向けて、頻繁に学習会が開催されるようになりました。当時、「男女雇用機会均等法」について、工場施設の女子寮で「林さん、職場の皆さんに話をしてもらえないか？」との要請があり、その時、私は初めて、大勢の皆さんの前で話をしました。わかりやすく説明しようとして、健康が大事だと力が入り、本題から遠ざかってしまい、反省した記憶があります。

石川県支部では、県支部に役員を出している組合から女性リーダーを幹事として任命し、「婦人委員会」を結成しました。まずは職場の仕事などの悩みや、各組合の婦人活動の活動状況を聞きながら、活動をスタートさせました。その後、当時の梅本支部長から「石川県支部で“婦人の集い”を開催しよう」と言われ、1975（昭和 50）年 5 月に県支部会館に約 60

名の参加者を集めて開催しました。集いの次第は講演会と分科会で、活発な意見交換を行い、交流の輪が広がりました。

仕事に行き詰まったときには、ブロックの県支部に電話で相談したり、本部の職員同士で会話して不安を解消したり、多くの先輩たちから声をかけてもらい、勇気を得ました。職務も長くなり、石川県支部次長にという話が出た時は、思わずお断りしましたが、「今までの常任プラス責任プラスだ」という言葉にプレッシャーを感じながらのスタートでした。仕事の辛さは勉強不足からであり、親が年老いていることなど不安がいっぱいでしたが、まわりのサポートがあるということで、何とか引き受けました。

「婦人委員会」から「女性委員会」、「男女共同参画委員会」と名称が変わり「男女平等社会」に向けた取り組みが広がりを見せた、この変化の時期に立ち会えたことをうれしく思います。

共働きが当たり前になりましたが、その後は時代がさらに進み、「石川県男女共同参画委員会」の幹事の学習会の中で「育児・介護」の現状について、地方自治体の取り組み実態を調査しようと、自治労にも協力を頂いて、石川県内各地域の状況を一冊の冊子にまとめることが出来たことは、委員一同が取り組んできた目標を達成することとなり感慨無量です。

労働界も連合が結成されて、地方でも労働組合が注目されるようになりました。私も連合石川女性委員会に関わり、女性委員会の結成総会で委員長に任命されました。マスコミが大きく取り上げたことに驚きました。その後は、石川県や金沢市委員などとして活動に携わり、女性の立場から意見を述べる場が増え、活動が広がっていくのを実感しました。

連合の中では、民間組合の現状や、活動を理解してもらえるように発言をしました。そうしたことが、ゼンセン同盟の活動が一目置かれるようになり、共感を得ることになったと思います。そして連合推薦の女性議員と連携をとり、女性集会に参加していただいたり、女性の労働問題、介護問題などでも、会う機会が増えたことにより、問題解決の糸口になりました。

これからの女性の方々は、教育の機会も増え、組織化や合理化にも対応できるオルグ活動を身につけ違和感なく働けるようになるのではないのでしょうか。

仕事と家庭の両立がさらに進むよう願っています。

定年退職後のこれからは、地域に溶け込んでいこうと思っています。母の介護は、一人ではできません。今は、近くの方に協力していただいて、なんとかやっています。

私の組合人生をしみじみ振り返りながら、お世話になった皆様に心より感謝しております。

終